

会 議 録

日 時	令和6年12月18日(水)14:00~16:00
場 所	総合文化センター 視聴覚室
件 名	令和6年度 第6回社会教育委員会定例会
出席者	社会教育委員：小栗正敏、加藤一哉、板橋晋司、松浦大哲、安藤裕子、有賀秀雄、伊藤孝一、浅沼克郎、 平井巖、岩島留美子、工藤剛士 事 務 局：加納素介(中央公民館長)
議 題	1 挨拶(代表) 2 協議事項 (1) 調査研究計画について 「ふるさとに誇りがもてる世代間の交流促進について」 意見 まず皆さんで、実態調査の回答を見ていただいて、その中から、共通することとか、得意なことを頭に留めておきながら、質問内容を考えていけるといいなと思います。 意見 回答がそれぞれ一生懸命活動していることが見えて素晴らしいなということはいくつもありました。ただ多少まとめやすいように、回答に一貫性がでてくるとよろしいかなと思いました。(実際に活動しているのに)若干漏れている活動もあるようにみえます。 意見 それぞれの学校とか地区あるいは公民館のとらえ方にやっぱりちょっとずれがあるのでどうしても回答もずれてくるってところは確かにとおっしゃるとおりだと思います。 意見 小学校の方からいろいろアンケートいただいていますけれども、実際はもっといろんな学校行事があります。どうしても公民館活動の方が中心になってしまいますけれども、もう少し地域の方が学校の授業に参加して、いろんな方が関わった形になるとよいと思います。多分学校の先生がどういう風に回答したらいいかわからなかったのか、感想が無いんですけども、学校がどういう風に(地域活動に対して)感じたかっていうことを見たいです。 問題は、地域をどういう風な形で巻き込んでいって、地域の声を吸い上げる、当然これ参加する方が何人ぐらいいるかっていうことも大事なことですし、今後いかにその地域の人と組んでいくかというのが、大きな課題かなと感じました。 もう一つ、地域との交流というのは、私の地区もそうですが、もう少し踏み込んで、地域のいろいろ文化伝統自然について考えていったら、もう少し、いい活動になるのではないかなと。交流関係の方が多くて、自然文化に関する活動が少ないなという印象です。 意見 南中学校と北中学校でやはり校区が広いこともあり、ボランティアで中学生を派遣していたり、授業でやっていたところに限られたりしている。中学校自身は活動を把握しきれてない部分もあるのかなと思いました。 稲津公民館の活動に、「自らの手で」という言葉がすごく印象に残っています。11月に土岐市の文化プラザで行われた青少年健全育成県民大会でも、高校生や大学生が、自分たちから動いて自分たちで発信していく、という活動をしている姿を見ました。(単に)公民館の行事に参加するというものと比べると、次の世代へってどんどん繋がっていく部分があるかなと思いました。高齢化とか、担い手の減少とかそういうところを見ていくと、やっぱりそういう活動を自らの手で担っ

ていく、という形を生み出していくことが大事ななと思いました。

文化活動という点で言うと、現実には日吉地区でいうと、歌舞伎をやっていたり、人形浄瑠璃をやっていたり、世代間が繋がって、文化を引き継いでいるわけですが、これは民間主体で実施しているので、実際には活発に行われている活動が、ちょっと拾いきれていないかなと思います。

意見 瑞浪北中学校の方ですが、10月10日の授業に、呼びかけられて、大湫から住民が参加しました。生徒からの感想文が、12月1日号の、広報大湫に載せさせていただき、すごく感動した、よかったという意見がありました。今後なるべく広報大湫に、釜戸小学校も瑞浪北中学校の生徒の感想等を、これからも載せていきたいと思います。

意見 まちづくり推進協議会の青少年育成部会が、小中学生をターゲットに、まちを知ろうということでイベントの企画をしています。やはり学校がどういう風に関わるかというか、まずは地域と、あと子供たちを呼び込んで、そこに保護者も一緒に巻き込んでいかれると聞いています。そういう企画案、これはすごく面白いなと感じています。

意見 どうやって質問するといった答えが来るかなって考えるとなかなか難しいですね。子供たちが主体性を生かせるようなボランティア活動に踏み出していただけるとありがたいと思います。ただ中学生が行う内容として、過保護すぎるような活動は満足度も残らないということもあります。

親世代の参加があると、ボランティアを通して、子供が何か成長している姿とか、いい思いをしてきたってことを保護者が知ることができます。本当は小学生も十分できるのではないかなと思います。小学校だったら6年間、中学校だったら3年間、同じ地域で同じ学校で年間行事を示して、何年間このボランティア来てください、とまでは言えないけど、ボランティアの仕事の内容が次の年になってグレードアップするみたいなことができたりするといいなと思います。例えば、児童館まつりでは、中学生のボランティアは本当によくやってくれます。小学校のときから児童館に通って、お手伝いしてくれている子供はすごくよくできる。1回だけ学校から呼びかけられてパッと来た子は、それなりにできるけど、ボランティアに来てくれてよかった楽しかった、で終わってしまう。やはり回を重ねると、力がついている様子がわかるので、そういったボランティアの関わり方が広がるといいなと思っています。

意見 周辺地域で、地域での行事が多くて、従来から子供も巻き込みながら普通に自然にやってみたところは、小中学生が活躍してくれたという具体的な成果が上がってくると思います。

意見 やはり地区公民館があるところでは、公民館が主体となって、こういう事業計画をいっぱい立てることができると思いますね。個人的には、大変だと思うが地区公民館が担う活動を中央公民館がやっていただきたい。3地区(瑞浪・土岐・明世)の住民は、公民館活動の恩恵に何十年と預かってないので、ないのが当たり前という認識になっているということが課題です。

あとPTAとしての活動と、子供との活動との関係はっていう意味で、PTAの動きってというのが、コミュニティ・スクールの中で、入ってくるはずだけど、そういうものがまだ見えてこない。その辺のところももう一度洗い直して必要はないだろうかなと思います。

また現在のほとんどの活動がこれ学校要請型で、学校がこういうことをやりますのでご協力お願いしますという風にして来てもらっている段階で止まっているのが実情。一部、変わりつつあるのかもしれませんが、まだ表れてこない。住民の自主参加、いわゆる、ちょっと今日学校行って掃除してこようかなという部分でもいいので、やれるような活動が、生まれているのかどうかということ、まだはっきりしていません。そういう部分を考えていきたいと思います。

意見 ボランティア活動を通じて地域貢献のために何ができるか考え、活動に進んで参加することができる。自分から進んで行けるとすごいなと思います。主体的に、活動を進め、参加していけば、それだけの効果があるかなと。地域伝統文化、自然に関わって、地域との関わり合いができるような活動を仕組んでいるけれど、染み込んでいっているかというところを把握するというのが必要か

などと思います。

Ⅰ 人の特定の人がミシン(家庭科支援)も行って、草取りも行って、地域行事の方も行くとか、延べ人数で考えると多いけど、実際にはまた同じメンバーが集まっているっていうことがあります。(後継者の問題として)PTA の中にコミュニティ・スクール要員とか位置づけて、現役のときは仕事や家庭の関係でできないかもしれないけど、将来OBになったときは地域活動に参加する意識を持ってということにならないと、高齢化で、立ち行かなくなるような時代が来るのではないかいうことを思いました。

意見 皆さんおっしゃるように、多彩な活動があるので参加者をこれからどういう風に増やしていくかということ、いかに後継者を育てていくかということ、小中学生と年配の方の交流は多いが親世代の参加をどうやって増やしていくかというようなことが課題になるかなと思いました。

また、例えば、地域学校協働活動として目指す姿は何ですかって聞かれて、まず地域学校協働活動という言葉を知っている方がまだまだ少ないと感じます。コミュニティ・スクールは令和 6 年度には市内全小中学校でスタートしたので体制としては整っています。地域と学校が協働して、一つの課題に向かって、ともに考えて解決していく活動ととらえていますが、なかなかその言葉を選んでいかないと、回答する側も大変だなと思いました。

調査を、小中学校 10 校の学校運営協議会委員の代表 3 名に送付したときに、各コミュニティ・スクールの代表が、まちづくり推進協議会の会長さんとか、部会長さんみたいな方のように学校も地域もすごくよく知っている方ならいいのですけども、結局教頭や校長のところに調査の話が来ると思うと、なかなか回答を作るのも大変だと思うので、事前に社会教育委員が学校とか公民館とかへ足を運んで(説明する)、ということをして今後行っていかっていくことは課題かなと思います。

意見 まず活動自体は大変多い。特に周辺地域とかは本当に活動が多くて、素晴らしいなと思いました。活動における、子供の関わり方、子供のありようについて、いくつか分類ができるのかなと思います。行事のボランティアのように子供が主体的に地域へ出て、子供が貢献していく。挨拶活動のように、大人が地域の子供のために何かしてあげる、というような活動。あと、その中間の、一緒に何か活動しながら、お年寄り等の活動を通して、お互いが理念を共有していくというような活動。その 3 つの観点に分けても、本当に様々な活動があって、充実しているなということを思いましたが、研究テーマの、ふるさとに誇りが持てる世代間の交流促進、としたときに、どういう活動がこの目標に、近づけるのかなということ、どういうところに焦点を当てて、調査を考えていくと、見えてくることがあるのかなと思います。

意見 学校運営協議会も、やはり中心に子供があるので、子供の成長にどうやって地域と関わってもらうといいのかな、という観点だと思いますが、そこからまだ抜け出せないところがあるかなと思います。それに対して、公民館やまちづくり協議会といった地域側は、どう子供も巻き込んで地域を活性化させていくかという形になる。地域住民が主で、そこに子供をどう取り込んで、子供の力を地域に生かしていくかということだと思いますが、瑞浪市は学校運営協議会が 1 つで、両方兼ねてみたいなことになっているのでさじ加減が難しいと感じます。ただ、学校運営協議会の中に、公民館長さんとか、地域の中心になる方も入っているので、調査を依頼するときに、地域の方が主体になる点もありますが、学校と地域とが、それぞれの立場で分けて考えてもらうといいのかなと思います。どこに焦点を当てたら、ふるさとに誇りが持てる世代間の交流促進に繋がっていくかというところを考えていくと良いのかなと思いました。

意見 研究テーマが、ふるさとに誇りが持てる世代間の交流促進についてということで、自分の地域のいろんな活動を眺めたときに、この活動が一番フィットしていると思ったので、陶のふれあい広場を 1 つの例にしますが、開催が 36 回目と結構長いこと続いています。今日まで連綿と続いてき

たのですが、陶の青少年の育成部会が中心になって行っています。お年寄りから小学生、あるいは幼稚園保育園のお子さんまでが、みんなで楽しむということを狙いにしています。もう 1 つは、陶の大人たちが頑張る姿を、子供たちへ少しでも見せたいという気持ちがあります。

参加者としては、昔は大川・水上・猿爪の 3 地区で対抗して、参加者がたくさんいました。しかし現在は陶小学校の参観日とコラボしていきまして、参観日が終わった後にこのふれあい広場を行うということで、子供たちや保護者の方もほとんど全員参加してくださるシステムに変えました。

そうした中で、ボランティアとして瑞浪南中学校の生徒さんはもちろん、稲津町在住の生徒もたくさん来てくれて本当にうれしいなと思いました。また今年は瑞浪高校の生徒や、麗澤瑞浪中学校の生徒もたくさん来てくれました。市長さん教育長さんも陶までわざわざ来てくださって挨拶もしていただきました。最後、閉会式が終わった後にくじ引き大会っていうのがありまして、このくじ引きの賞品を陶の企業から提供していただいています。陶の文化を子供たちに少しでも知ってほしいという願いがあります。今年は 200 から 250 ぐらいの人数の参加があったと思いますけど、小学校の校長先生はじめ先生方にもいろいろお世話になって、何とか成り立っています。行事に関わる活動団体として、消防団が交通整理やってくれたり、社協の方がポップコーンを作ってくれたりとかいろいろやってくさいました。

このように世代間の交流ができる貴重な場ですが、若者世代とか親世代の参加はやはり少ない。子供と高齢者の参加人数が多いことは成果ですが課題でもあります。それから小学校の参観日とコラボして実施できるっていうことが最近 1 つ大きなポイントになっています。それから、もともとは陶も 3 つの地域で実施していたのですが、もう到底持続可能で発展はしていけないので、今はゲームを中心にして活動を楽しむような形にしています。何とか倒し大会とか靴を飛ばすゲームとか、ちいさい子も年上の方も誰もが楽しめるようなところがやっぱり大事なかなと思っています。

それから文化交流の話として狂俳っていうのがありまして、俳句より短い文字数で表現する方法ですけど、最後風船飛ばしの風船の下にくっつけて全国に向けて飛ばしました。北海道まではいきませんが関東地方までは飛んで行くみたいです。

ただ一般市民の参加がまだまだ少ないので掘り起こしていきたいということ、それから高齢者と子供たちが触れ合える活動をさらに充実させていきたいということ、それから、交通費などの予算の検討も、大きな課題になってくるかなと思っています。

意見 先ほどの意見でもあったように、地区公民館があるところとないところではやっぱり大きな違いがあると感じます。最終的な提言の中にも、地区公民館を何とか設置してほしいっていう話を入れてもいいかなと思いますが、市長の話で、それは中央公民館が担っていくと回答されたというお話もありました。じゃあ具体的にどういうふうに中央公民館が担っていくといいですよっていう辺りも提言しようと思うと、お金や人員の課題も絡んでくるので難しい話と思います。でもそういうことをしていくと他の地域で活動ができているように、世代間の交流がどんどん活発になって、地域の発展し、学校も豊かになっていく、そして子供も育っていくっていう方向になるような気がしますので、この後、調査事項の内容についても検討していただきますが、皆さんの発言や資料を見ながら、少しでもこの先の方向性が見えてきたのではないかなということを感じました。

意見 わからないことがあります。世代間の交流促進、ということでそれぞれすごいことを実施している事例はたくさん出してもらえんと思います。その中で、私たち社会教育委員として、どう関わったのかということですね。世代間の交流促進という部分について、社会教育委員としてはどう関わっていけばいいのか、そこまで私はまだ頭の中で繋がってこないのです。地域のコーディネーターという役割があるが、私はコーディネーターだけではないような気がしています。

意見 いろいろ考えてコーディネートしながら、こうやっていくといいよって、いうことをやっていますが、も

う 1 つはやはり、社会教育委員として全体を見ながら、提言をもって、市全体に対して、今後の方向をお示しすることだと思います。

意見 社会教育委員の役割として 2 種類あって、委員会としての活動と、委員個人としての活動で、活動者としてやっていく部分があります。だからこれでいうと、運営協議会の中の委員としてどういふふうに活動していけるかっていうことになる、これは個人としての社会教育委員の活動でしょうね。社会教育委員会としたときに、個人個人の活動を、集約して、それぞれ活動していますよというやり方が 1 つの方法だと思うが、どういう方向でいこうとされているのか、申し訳ないがいまだに繋がってこない。

意見 個人としては地域の中でコーディネートする役割があると思います。でも、委員会としては、瑞浪市の社会教育の方向を、お示しするのが仕事なので、そのために調査研究をして、提言をして、実現に少しでも向かっていただく。委員の二面性っていうのはそういうことじゃないかなと思います。

委員 世代間の交流促進をするための手段についてですが、ふるさとに誇りが持てるための世代間交流促進という意味で使ってみえると思うのですが、簡単にふるさとに誇りが持てるっていう認識って、私たち、今日、共通化していますか。ふるさとを誇りに思うとか、ふるさとだから好きになるとかっていう、表現をしているけれど、中身って何ですかって聞いたときに、明確にこうですって答えていただけるか。どこの学校も、指導要領には愛着とか、その中身にはいろんな形のものがあるので、それをこうですって子供たちもある程度考え、答えてくれるような質問を考える必要があります。小学校でいえば 5 年生 6 年生ぐらいなら答えられるが、1 年生 2 年生だとまだ難しいかもしれない。

意見 小学校の経営目標の中にある、ふるさと大好き子みたいなものもいずれもそうです。では大好きの中身っていうのはどういう風に捉えているかということが、本来活動に結びついてくるはずなのですが、それを具体化しようとしたら、より具体的な活動になって初めて見えてくるわけで。挨拶運動でも、挨拶を自分ではしたと思い、でも声に出してなかったらどうかとか、町の中で、1 人で大声出したからって言っても、挨拶したことにはならない。具体化してかないと。いいものができているかできていないのか、評価もできないのではないかなと思うのですよね。だからその辺のところはやっぱり詰めていく必要があります。正直言って、ふるさとに誇りが持てるっていう意識っていうのは、数値でなかなか推しはかることはできません。ふるさとを好き、自慢できる、あるいは名誉とを感じる、そのような上位に向けての意識の流れはあると思いますが、それを数値化して、どれぐらいの人が思っているか、ということはなかなか推しはかることはできないです。ただ 1 つ言えることは、そういった思いを持ちながら活動し、活動することによってまた思いがさらに強くなる。両輪でどんどんどんどん上位になっていくものだなって私は思っています。だから、言い方を変えれば、小さいときから世代間で交流していれば、その子が活動に参加する中で、楽しいな、自分も今度もっとボランティアでやりたいな、という思いを持ち、中学生高校生とだんだん大人になるにつれ、地域のためにお世話になったから自分も知った地域のために何かやらなければ、と思って活動が進んでいく、ということが理想だと私は思います。

ただそれが皆さんの意識の中に共通しているかどうかっていうと、まだまだ十分ではありません。最後評価で、目に見える形で、それが評価できるかって言われるとちょっとこれはなかなか難しいこととは思います。だからその辺りのことを今後の会議で話し合う質問事項の中にどうやって入れていくかっていうのも 1 つまた課題だと思います。

事務局 質問を分析することで、提言に繋がるかなと思います。今回の調査は、どちらかというと基本調査で現状を把握するために、網羅して、より詳しく知るという目的ですので、これをなかなか分類したり分析したりするのは難しいかなと思います。そこで新たに分析できるような、よりテーマに関わって、実態や、実際にやっていること、課題、あるいはアイデアなどを出していただくことで、調

査分析の元になるかなと思います。少子高齢化で、孫世代と祖父母世代の交流の中に、保護者世代がなかなか関わってこれないので、活動を継続できるか不安がある、というようなことも含めて、どのような意識を育てていくかということの参考になるといいかなと思います。

目指す姿についてですが、これは各地区で熟議して出していて、割と共通しているようでしたので、その最大公約数的なテーマかなと思います。ただ、活動現場としては目指す姿をどれだけ強く意識しているかどうかは、相当温度差があるなということは伝わってきました。これはどういう聞き方をするかで、家庭・地域・学校という立場ごとに聞くのか、1つの組織として目指す姿を聞くかって2つの場合があると思います。ただ基本調査の中でも聞くことはできるので、それぞれの立場で聞いた方がいいのか、また皆さんの考えをお聞かせ願えるといいかなと思います。

ふるさとして言ってもなかなかどの範囲が難しいですが、小学生では家の周りかもしれないし、だんだん中学校と広がっていく。その辺、曖昧にしといてもいいのか、どう思っているのかってことも1つあるかなと思います。メインのところの、ふるさとに誇りが持てる、という共通認識ですけど、それはどういったときに感じましたかという問い方で、こういったときにそれが強く感じたとか、出せたとか、どういう体験によってとか、ということ、実際の声として拾いたいと思います。この部分が活動の成果として挙げられることに繋がってくるかなと思います。場合によってはさらに具体的に聞かないといけない場合もあるかもしれません。

目指す姿を生み出すために工夫していることについては、交流の実態、予想されるのは祖父母世代、子供たちというのが圧倒的かなとは思いますが調査でも欲しいなと思います。あと世代間の繋がりに必要なことについて、前回の提言のときに、後継者の問題というのが大きく課題で出っていて、どうしてもここが大きな課題で、なかなかこれはといった方法が、手詰まりのところもあるかなと思いますので調査したいところです。

意見 もうちょっと時間かけて審議してください。余りにも短い時間ですよ。地域学校協働活動という言い方で表現して、誰がわかるのってことです。年間の活動と言われたって、学校運営協議会の回数を答えればいいのか、例えば、世代間交流に関する活動の年間計画を立てて、これをどういう風にして、企画委員会などの会議をやって当日を迎えて、反省会を実施してっていう風を書くのか、そういうところまで全然詰めてないので、答える方が答えられないと思います。だからもう少し時間をかけて、話し合ったらどうですか、と思います。

意見 もっとその他の意見が言えると思うですよ。全然関係ない意見でもいいので、自由に発言するというそういう欄を設けるといいのではないかと思います。いずれにしても時間がもうあまりないので、もう1回次回、皆さんで討議してもらいたいですけど。

意見 もし考える時間が(自宅等で)少しでもあったら、書いていただいて事務局に送ってくださればまたそれを今度のスタート時に活用できるので、ぜひお願いします。今の自由欄を設けたほうがいいのではないかって意見も、私はいいなと思いましたし、あるいは他の委員さん言われたように、確かに答えることがなかなか難しいような質問もありますが、本当に必要なことが回答できるような、また提言に生かすことができるような質問にしていきたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

ただ、次回、このままのスタートなのか進めておいた方がいいのかということで、進めるとしたら何らかのたたき台がないと始まらないので事務局で実態調査を整理整頓していただいて、これも元にしながら、スタートするっていうことでいきたいと思います。

3 今後の予定について

- ・1月21日(火)地域学校協働活動推進員フォローアップ研修②(該当者のみ)
- ・2月19日(水)第7回社会教育委員会 質問内容の検討

	・3月7日(金)第4回東濃地区社会教育振興協議会理事会 (案)第1回社会教育委員会 令和7年4月22日(火)
--	---

	4 閉会の言葉(副代表)
--	----------------------------